

アートをつばさ6

—「光風会展」—

久しぶりに「アートをつばさ」をお届けします。

「アートをつばさ」は、並木ドリーム・セカンドステージである今年度からの新企画で、美術館マニアの私が見た「アート作品」を紹介するシリーズです。

今号では、4月30日（日）に国立新美術館で見学した「光風会展」を紹介します。「光風会」は、明治29年（1896年）に黒田清輝を中心に発足した「白馬会」の流れをくむ美術団体です。実は、私が水戸一高の教頭だった当時、美術の先生だった町田博文先生から、招待状をいただき見学に行きました。町田博文先生は、光風会会員であると共に、日展の審査員でもあり、日本を代表する洋画家です。今回、私が特に感動した7作品を紹介します。絵画を鑑賞することは、イメージ脳である「右脳」にとってもいい刺激になります。皆さんも、近くで美術展があったら、ぜひ足を運んでみてください（^o^）。



■左上から ①「アンダルシアの装い」町田博文 ②「月日詠みつづ」児島新太郎
③「光の庭」本山二郎 ④「ミドバル、マニスクリプトへのオマージュ」藤森兼明
⑤「路」大谷喜男 ⑥「春聞」西田伸一 ⑦「洛東散策」原田たかし…点描の作品

◆この夏一押しの美術展は、「ボストン美術館の至宝展」（7/20～10/9 東京都美術館）です。モネ、セザンヌ、ゴッホ作品の他、東西の名品、珠玉のコレクションが展示されます。